

「世界に伝えたい日本人 60 選」をつくって ALT に紹介しよう！

本単元で育成する資質・能力

情報活用能力・表現力

- 1 実施期間 平成27年10月17日（金）～26日（月）・イングリッシュ・デイ（後日）
- 2 学年・学級 1学年A・B組（男子28人 女子32人 計60人）
- 3 単元名 My Project 2 「人を紹介しよう」（Sunshine English Course 1 開隆堂）
- 4 本単元を指導するにあたって

(1) 単元観

本単元は、第三者についてまとまった量の英文を書き、スピーチの形で発表するという活動が組まれている。生徒それぞれが紹介する人物を選ぶことができること、その人を紹介する英文を書くために、既習の文法事項（This /That is～, 三人称単数現在, 代名詞, can など）や辞書で調べた未習の表現をどのように組み合わせればいいのかを自ら考えて文章を構成させることで、生徒の主体性を引き出せる題材である。また、聞き手が、スピーチの内容について質問することで、これまで学習した疑問詞を使った応答にも発展させることができ、「話す」力の向上をねらうこともできる。

ねらいとする資質・能力としては、紹介したい人物についての情報を自ら調べたり、これまで学習した文法事項やモデル文で使われている未習の表現などから必要な要素を取り入れるという点で「情報活用能力」、スピーチ原稿を書いたり実際に発表したりする活動を仕組むことで「表現力」を育成できる単元だと考える。

(2) 生徒観

本学年の生徒たちは全体的に英語学習への関心・意欲は高く、ペアワークやインタビューなどのコミュニケーション活動にも意欲的に取り組んでいる。1学期末より自己紹介の表現を練習し、学期末のスピーキングテストでも全員が8文程度の自己紹介文を英語で正確に表現することができている。2学期初めには、「外国の学校での自己紹介」をパフォーマンス課題に設定し、全員がスピーチ発表を行った。生徒の中には、暗記が不十分で原稿の棒読みになってしまったり、表情が硬くなったりする者もいたが、皆、できるだけ原稿を見ずに、笑顔やジェスチャーを工夫するなど、相手意識を持って取り組んだ。また、この活動を通し、自分の言いたいことをより効果的に相手に伝えるための方策について、内容や伝える順番など、それぞれが自分の課題を見つけ、次回の活動への意欲をもつことができた。本単元においてもパフォーマンス課題としてスピーチ活動を設定する。生徒たちは前回の課題を踏まえ、よりよいスピーチをしようと努力することが期待できる。

(3) 指導観

指導に当たっては、英文作成の段階でペアで原稿をチェックさせたり、クラス発表の前にグループで予行演習をするなど、他の生徒の英文に多く触れさせ、生徒が、自分と他者のスピーチを比較したり、修正したりしながらより思考を深め、表現の幅を広げられるよう指導したい。さらに前回のスピーチ活動を振り返り、生徒それぞれに課題意識をもたせるとともに、「ALTに伝わるスピーチを行う」というゴールを明確に意識させることで、前回以上に相手に伝わる表現やデリバリーを工夫させたい。さらにABC評価の指標をルーブリックで生徒に示すことによって、生徒自ら目標設定をし、それに向かって練習するという積極性を促したい。

また、本単元の目標達成のためには次のような基礎・基本の力及び手立てが必要であるとする。

【基礎・基本の定着】

(1) 習得すべき基礎・基本について

- be 動詞「is」や三単現を使った英文を作る力
- be 動詞「is」や三単現を含んだまとまりのある英文を聞いたり、読んだりしてその内容を理解する力
- 三単現を含む疑問文を使って質問したり、答えたりする力

(2) 定着への手立て

- ターゲットに繰り返し触れさせる家庭学習で三単現を含む英作文をプリントや問題集で練習。
- 帯学習でのミニ読解・ミニリスニング
- 帯学習で重要文型を含んだ英文でのQ&A

5 単元の目標

- 既習事項を用いて、自分の紹介したい人物について英文を書く。
- 紹介したい人物について、相手に伝わるスピーチをする。
- 既習事項や辞書等を活用して積極的に紹介文を書く。
- 間違いを恐れず積極的にスピーチしたり、質問したりしている。
- be 動詞「is」や三単現を用いた英文の用法を理解している。

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
① 既習事項や辞書等を活用して、積極的に紹介文を書いている。 ② 間違いを恐れず、積極的にスピーチしたり、質問したりしている。	① 既習事項を用いて、紹介したい人物について英文を書くことができる。 ② 紹介したい人物について相手に伝わるスピーチができる。	この観点は評価しない。	① be 動詞「is」や三単現を用いた英文の用法を理解している。

6 単元の評価規準

7 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

※塩町中学校区では、小中9年間で身に付けさせたい9つの能力を定めている。

塩町中学校区9能力				
① 情報活用能力 (調べてまとめる力)	○	④判断力 (自分で決める力)		⑦健康・体力 (元気にやりきる力)
② 発見力 (見つける力)		⑤表現力 (伝える力)	◎	⑧人間関係形成能力 (人とかかわる力)
③ 思考力 (考える力)		⑥将来設計能力 (なりたい自分を描く力)		⑨生活力 (学んだ事を生かす力)

⑤ 表現力 ……相手にとって分かりやすく、好意的に聞いてもらえる話し方ができる。

① 情報活用能力 ……紹介したい人について調べ、それを表す表現を教科書やミニ読解などから取り出して自らのスピーチ原稿作成につなげることができる。

8 指導と評価の計画 : (全7時間)

次	学習内容 (時数)	評 価										
		関	表	理	知	評価規準 (評価方法)	資質・能力の 評価 (評価方法)					
0 前 時	○次の単元のパフォーマンス課題を知る。											
	<p>「世界に伝えたい日本人60選！」を作ろう。</p> <p>海外からの観光客が増加し続ける今日。観光地や日本製品、マンガだけでなく日本には魅力的な人物がたくさんいます。海外の人にぜひ知ってもらいたい日本人を60人選んで、ガイドブックを作りたいと思います。あなたの好きな人を選んで、その人の基本的な情報と趣味や特技、性格等をできるだけ詳しく(8文以上で)説明する文を書き、全員で作品を完成させましょう。そして11月4日のイングリッシュ・デイで、ALTさんに伝わるスピーチをしましょう。</p>											
	<p>評価指標 (ルーブリック)</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ほとんど原稿を見ずにつまらずに話している。 アイコンタクト、笑顔以外にも自然な手振りや相手をひきつける工夫をしている。 自然な速さ、イントネーション、発音で大切な部分が聞こえ、内容がよくわかる。 </td> </tr> <tr> <td>B</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> 原稿を2～3度見ながらも、つまらずに話している。 アイコンタクト、笑顔を意識して話している。 大切な部分が聞こえ、内容が伝わる。 </td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>Bに達しない。</td> </tr> </table>							A	<ul style="list-style-type: none"> ほとんど原稿を見ずにつまらずに話している。 アイコンタクト、笑顔以外にも自然な手振りや相手をひきつける工夫をしている。 自然な速さ、イントネーション、発音で大切な部分が聞こえ、内容がよくわかる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 原稿を2～3度見ながらも、つまらずに話している。 アイコンタクト、笑顔を意識して話している。 大切な部分が聞こえ、内容が伝わる。 	C
A	<ul style="list-style-type: none"> ほとんど原稿を見ずにつまらずに話している。 アイコンタクト、笑顔以外にも自然な手振りや相手をひきつける工夫をしている。 自然な速さ、イントネーション、発音で大切な部分が聞こえ、内容がよくわかる。 											
B	<ul style="list-style-type: none"> 原稿を2～3度見ながらも、つまらずに話している。 アイコンタクト、笑顔を意識して話している。 大切な部分が聞こえ、内容が伝わる。 											
C	Bに達しない。											
	○自分の紹介したい人物についてインターネット等で調べ、マッピングを完成させることを宿題にする。											
1	<p>帯 Q&A・ミニ読解(教科書モデル文)</p> <p>課題の設定</p> <p>○教科書のモデル文を参考に、自分が紹介したい人物の何をどんな順番で伝えるのか考える。</p> <p>情報の収集</p> <p>○辞書を使ったりモデル文を参考にしたりしながら、紹介したい人物についての情報を英文にする。(1)</p>	◎			<p>ア① (活動の観察)</p> <p>エ① (ワークシート) (後日筆記テスト)</p>	<p>情報活用能力 (活動の観察)</p>						
2	<p>帯 Q&A</p> <p>整理・分析・まとめ</p> <p>○英文を仲間と読み合い、改善する。</p> <p>○清書をして、発表原稿を完成させる。(1)</p>		◎		<p>イ① (ワークシート) (後日筆記テスト)</p>							
3	<p>帯 ミニリスニング(ALTのスピーチ)</p> <p>実行</p> <p>○グループ内でスピーチを発表する。</p> <p>○互いに質問やアドバイスをし合う。</p>	◎			<p>ア② (活動の観察)</p>							

	振り返り 新たな課題設定 ○ 振り返りをして、全体でのスピーチ発表への課題を発見する。 (1)					
4	情報の収集 整理・分析・まとめ 帯 ・Q&A ○ 質問に答えるための英文を練習する。 ○ 学級でのパフォーマンスに向けて練習する。 (1)	◎			ア① (活動の観察)	
5	実行 ○ 相手がALTだと想定し、学級で発表する。 ○ 相互評価をし、付箋にコメントを書く。 振り返り 新たな課題設定 ○ ワークシートに振り返りを書く。 ○ 仲間のコメントから新たな課題に気付く。 (2)		◎		イ② (活動の観察)	表現力 (発表の様子)
イングリッシュ・デイ	○ グループ毎にグループ内のALTに対してスピーチをする。 ○ ALTさんに発音やスピーチの姿勢について、評価してもらう。 ○ 最後にアドバイスをもらう。 ○ 自分たちが作った「世界に伝えたい日本人60選」をプレゼントする。 ○ 塩中カードに振り返りを書く。 (1)		◎		イ② (発表の様子)	表現力 (発表の様子)

9 本時の展開(1/7)

(1) 本時の目標

モデル文を参考に、紹介したい人物について英語で紹介文を書くことができる。

(2) 観点別評価規準

ア① 既習事項や辞書等を活用して、積極的に紹介文を書いている。

(3) 準備物

電子黒板、ワークシート、CDプレイヤー

(4) 学習の展開【第1次】

時間	学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科（○） 資質・能力（★） (評価方法)
導入 10分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。 ○Q&Aを行う	・日直が英語で授業開始の日付、曜日、天気、時間等を確認する。 ・英語学習への雰囲気づくりを行う。 ・相手の顔を見て会話するよう指示する。	

展 開 35 分	○本時の目標を知る。		
	自分の紹介したい人物について英語で紹介文を書こう。		
	○英語スピーチへの心構えを持つ。	<ul style="list-style-type: none"> ・前年度のイングリッシュ・デイの写真を提示し，ALTとの交流のイメージを持たせる。 ・パフォーマンス課題を再度確認し，スピーチに向けての心構えをもたせる。 	
	○モデル文を聞き，本文を読んで，内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書本文（モデル文）についてのQAを行うことで，スピーチ原稿に自分の気持ちや聞き手へのメッセージが入ると，内容がより相手に伝わりやすいことに気付かせる。 	
	○スピーチ原稿作成に向け，マッピングの情報を基に，何をどの順番で話すのか構成を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ◆英作文の際には，教科書のモデル文やこれまで読んできたミニ読解の中にも参考となる表現があることに気付かせる。 	★情報活用能力 ○ア①既習事項や辞書等を活用して，積極的に紹介文を書いている (活動の観察)
	○英文を書く。		
ま と め 5 分	○授業を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいに沿って学習内容・学習方法を振り返らせる。 	
	○次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・できた英文を仲間と共に推敲し，完成に使づけていくことを確認する。 	

10 本時の展開（2／7）

（1）本時の目標

仲間の原稿を推敲し，完成に近づけることができることができる。

（2）観点別評価規準

イ② 既習事項を用いて，目的に応じて書くことができる。

（3）準備物

電子黒板，ワークシート，CDプレイヤー

（4）学習の展開【第2次】

時 間	学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科（○） 資質・能力（★） (評価方法)
導 入 10 分	○あいさつをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が英語で授業開始の日付，曜日，天気，時間等を確認する。 	
	○英語の歌を歌う。	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学習への雰囲気づくりを行う。 	
	○Q&Aを行う	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の顔を見て会話するよう指示する。 	

展開 35分	○本時の目標を知る。 仲間と協力して、よりよいスピーチ原稿を作ろう。		
	○書いた英文をペアで読み合い、気付きを伝える。 ○教師のチェックを受ける。 ○清書をする。 ○音読練習をし、暗唱につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートのチェック項目に従って確認させる。大文字・小文字や綴りミスだけでなく、自然な流れになるように、文の順番や接続詞の使用等についてアドバイスする。 ◆内容理解をサポートする。 ・辞書を引いて未習の表現を使っている場合は既習文法に直させたり、日本語の補足を加えさせたりする。 ・ALTのネイティブチェックを受けることを伝え、丁寧な文字で書くよう指示する。 ◆清書が早く終わった生徒に、まだ下書きを終わらせていない生徒のサポートをするよう指示する。 ◆読めない単語がないよう、音読のサポートをする。 	★情報活用能力(ワークシート) ① 既習事項を用いて、紹介したい人物について英文を書くことができる。
まとめ 5分	○授業を振り返る。 ○原稿を提出する。 ○次時の活動を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・原稿完成にむけて努力できたかどうか自己評価させる。 ◆原稿が完成できてない生徒は個別に支援する。 ・次回は班で発表することを伝え、音読を練習するよう指示する。 	

11 本時の展開 (3/7)

(1) 本時の目標

相手に内容が伝わるスピーチをすることができる。

(2) 観点別評価規準

ア②間違いを恐れず、積極的にスピーチをしている。

(3) 準備物

ALTにチェックしてもらった生徒のスピーチ原稿。

(4) 学習の展開【第3次】

時間	学習活動	指導上の留意点(・) 配慮を要する生徒への支援(◆)	評価規準 教科(○) 資質・能力(★) (評価方法)
導入 10分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。 ○「ミニリスニング」(ALTの話)を聞き、内容を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・日直が英語で日付、曜日、天気、時間等を確認する。 ・発音のポイント示し、意識して歌うよう指示する。 ・ALTによるスピーチを自然な速さで行う。 ・質問には、日本語で答えてもよいことを伝える。 	

<p>展開 37分</p>	<p>○本時の目標を知る。</p> <p style="border: 2px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">班のメンバーに伝わるスピーチができる。</p> <p>○スピーチ原稿を再度確認し、訂正がある場合は直す。</p> <p>○良い英語スピーチのポイントを確認する。</p> <p>○スピーチを聞く側のポイントを再確認する。</p> <p>○個人で練習をする。</p> <p>○ペアで暗唱を確認し合う。</p>	<p>・制限時間を設定し、丁寧に書くように指示する。</p> <p>・スピーチのポイントを提示する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・ Smooth English ・ Clear Voice</p> <p>・ Eye Contact ・ Smile ・ Gesture</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・ Nodding ・ Smile ・ Reaction</p> </div> <p>◆個別指導により、音読できる自信をもたせる。</p> <p>・聞き方（表情や相づちなど）の指導を行う。</p>	
<p>班活動</p>	<p>○班の中で、班長から順にスピーチをする。</p> <p>○仲間のスピーチに反応しながら聞き、質問をする。</p> <p>○良かった点と改善点を伝える。</p>	<p>・良いスピーチ、聞く側の態度のポイントを意識するよう指導する。</p> <p>◆よい部分を具体的に評価し、生徒に自信を持たせる。</p> <p>・スピーチの内容に関連する質問が出るように支援する。</p> <p>・良いスピーチのポイントを基準に評価するよう指示する。</p>	<p>○ア②間違いを恐れず、積極的にスピーチしたり、質問したりしている。</p>
<p>まとめ 3分</p>	<p>○授業を振り返る。</p> <p>○次時の確認をする。</p>	<p>・相手に伝わることを意識できたか自己評価させる。</p> <p>・次の時間が最後の練習時間になるため、家庭でも練習するよう伝える。</p>	

12 本時の展開（4／7）

（1）本時の目標

スピーチの練習をし、クラスでの発表に備えることができる。

（2）観点別評価規準

ア②間違いを恐れず、積極的にスピーチをしている。

- （3）準備物 ・1学期に行った自己紹介スピーチの「評価シート」と今回の「評価シート」
 ・個々の生徒の名前が書いてあるネームカードマグネット

（4）学習の展開【第4次】

時間	学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科（○） 資質・能力（★） （評価方法）
導入 5分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。	・日直が英語で授業開始の日付，曜日，天気，時間等を確認する。 ・英語学習への雰囲気づくりを行う。	
展開	○本時の目標を知る。		
準備 10分	○良いスピーチのポイントを再度確認する。 ○評価指標を知り，自ら目標設定をする。 ○今回の評価シートに目標を書く。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ Smooth English ・ Clear Voice ・ Eye Contact ・ Smile ・ Gesture </div> ・ループリックを一緒に読み，ABC 評価について確認する。 ・前回の自己紹介スピーチで気付いた自らの課題をもとに目標を設定するよう指示する。	
練習 20分	○個人練習をする。 ○自信がいたら教師や仲間に聞いてもらう。	・写真を指差すなどのジェスチャーを使ったり，本番をイメージしながら練習するなどの指示をする。 ◆暗唱をチェックして発表できる自信をもたせる。	○ア②間違いを恐れず，積極的にスピーチしたり，質問したりしている。
次時の準備 10分	○発表順を自ら決める。	・黒板に発表順を表示し，自分が発表したい番号の横にネームカードを貼らせる。	
まとめ 5分	○授業を振り返る。 ○次時の確認をする。	・意欲的にスピーチ練習に取り組めたかを自己評価する。 ・次回がパフォーマンス発表となることを伝え，各自で練習することを指示する。 ◆スピーチの自信がまだもてない生徒は教師と個人練習ができることを伝える。	

13 本時の展開（5・6／7）

（1）本時の目標

クラスメイトをALTと想定して，内容が伝わることを意識したスピーチができる。

（2）観点別評価規準

イ① 相手に内容が伝わるスピーチができる。

（3）準備物

生徒用相互評価シート，付箋，ビデオカメラ，
スピーチをする際，聞く際のポイントを示したカード

(4) 学習の展開【第5次】

時間	学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科（○） 資質・能力（★） （評価方法）
導入 5分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。	・日直が英語で授業開始の日付、曜日、天気、時間等を確認する。 ・英語学習への雰囲気づくりを行う。	
展開 練習 7分	○本時の目標を知る。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分の設定した目標に到達するスピーチをしよう。</div> ○良いスピーチのポイントを再度確認する。 ○自分の目標を達成するための最終練習をする。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;"> ・ Smooth English ・ Clear Voice ・ Eye Contact ・ Smile ・ Gesture </div> ・時間設定を5分とし、集中させる。 ◆机間指導をしながら自信をもたせる。	
発表 33分	○スピーチをし、仲間からの質問にも答える。 ○仲間の発表を聞いてABC評価をし、付箋にコメントを書く。	・発表の中で、他の生徒に参考にしてほしい点や前回のスピーチからの伸びについて肯定的評価をする。 ・質問をした生徒をしっかり評価する。 ◆完璧でなくても、努力した点を評価する。 ・コメントには、特に良かったところやアドバイスを短く書くよう指示する。	○イ②紹介したい人物について相手に伝わるスピーチができる。 ★表現力（発表の様子）
まとめ 10分	○各生徒の「コメント用紙」（下記図1参照）に付箋を貼っていく。 ○仲間からのコメントも踏まえて、評価シートに振り返りを書く。 ○次時の確認をする。	・仲間からのコメントを読ませ、自分の設定した目標に到達できたのか振り返らせる。 ・次回はイングリッシュ・デイで実際にALTに対するスピーチを行うことを伝え、自分の新たな課題克服に向けて、練習するよう指示する。	

※図1 「コメント用紙」

生徒それぞれが付箋に書いた仲間へのコメントをB4の用紙に貼らせていき、全部そろったら生徒本人へ配布する。

Nagauchi Miwako

発音が良かった。○○より	スラスラ言っていた。○○より	全部覚えていてすごい！○○より
笑顔で話せていて good!。○○より	自然な発音だった。○○より	もう少しゆっくり話した方がいい。○○より
わかりやすかったよ！○○より	ジェスターがあつて良かった。○○より	聞きにくいところがあった。○○より
内容が面白かった。○○より	早口だった。○○より	アイコンタクトができていた。○○より

(1) 本時の目標

ALT に内容が伝わるスピーチができる。

(2) 観点別評価規準

イ① 相手に内容が伝わるスピーチができる。

(3) 準備物

自分の紹介したい人について描いたポスター

(4) 学習の展開【第6次】

時間	学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する生徒への支援（◆）	評価規準 教科（○） 資質・能力（★） (評価方法)
導入 5分	○あいさつをする。 ○英語の歌を歌う。	・英語リーダーが司会をする。 ・ALT を歓迎する気持ちを込めて歌うよう声掛けをする。	
展開	○本時の目標を知る。 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ALT に内容が伝わるスピーチをしよう。</div>		
準備 10分	○最終練習をする。 ○それぞれのグループに ALT を招く。	◆机間指導を行い、自信を持たせる。 ・各グループのリーダーに「○○, Please come to our group.」など、ALT と英語を使ってコミュニケーションが図れるよう、基本的な表現を練習させておく。	
発表 25分	○紹介したい人物についてスピーチをし、ALT からの質問にも答える。 ○ALT からのアドバイスを聞く。 ○最後に、ALT に自分たちが作成した「世界に伝えたい日本人 60 選」をプレゼントする。	「よいスピーチのポイント」を整理する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【例】</p> <p>(導入) Hi, everyone.</p> <p>(本文) Look at this picture.</p> <p>He is Fukushi Sota. He is an actor.</p> <p>He is from Tokyo.</p> <p>He is 24 years old. He is 180cm tall!</p> <p>He can speak English very well.</p> <p>So I like him very much.</p> <p>(結び) Thank you for listening.</p> </div> <div style="border: 2px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・本文は 7~8 文あること ・名前, 職業 ・出身 (今住んでいることろ) ・あまり知られていない情報 ・自分がその人についてどう思うかなど ・自然な流れでつながりを意識して </div> <p>◆努力した点をできるだけ評価する。 ◆ALT からの質問の意味がわからないときはわかりやすい表現にして伝える。</p>	○イ② 紹介したい人物について相手に伝わるスピーチができる。 ★表現力 (発表の様子)

		<ul style="list-style-type: none"> ・ALTには英語の流暢さだけでなく、ジェスチャーやアイコンタクトなど、「良いスピーチのポイント」を意識して表現できた点を具体的に評価してもらい、改善点についてもアドバイスをもらう。 ・生徒が英語で伝えた内容について、ALTから質問や感想を生徒に伝える。 	
まとめ 5分	<ul style="list-style-type: none"> ○「塩中カード」に振り返りを書く。 ○英語リーダーがALTにお礼の言葉を伝える。 ○ALTからのメッセージをもらう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元を通して自らが頑張ったこと、新たに見つけた課題などを視点に振り返らせる。 ・本単元での生徒の取組の姿勢について肯定的な評価をし、この活動が今後どんな場面で活用できるかを意識させる。 ・ALTから、スピーチ、「世界に伝えたい日本人60選！」についての肯定的な評価をもらう。 	